

週間 仮設きずな新聞

第20号
ピースポート災害ボランティアセンター
石巻市中央2-4-6
090(6639)6467

牡鹿半島 鹿立浜 ワカメ大漁



牡鹿半島西部鹿立(すだち)浜。昨年10月に私たちが種付けをお手伝いしたワカメが、収穫の時期を迎えたというところで、お邪魔してきました。やっと空が

白んできた午前6時、肌を刺すような冷たい空気を吹き飛ばす、漁師さん達の威勢の良い声が船着き場に響いています。船に乗り込み、冷たい風を切りながら沖へと船を走らせること10分、太いロープにぎつしりとワカメが伸びた養殖棚にたどり着きました。手足先感覚はとつくになくなっています。

が、漁師さんに教えて頂き、鎌を使って必死にワカメを刈り取りました。慣れない作業で半人前もお手伝い出来なかつたと思います。船の上から見た朝日とそれを受けてキラキラと輝く海、そして船が沈まればかりの大漁

2月29日、鮎川浜にある「おしかのれん街」前にて葛城ユキ・コンサートが開催され、雪の中にも関わらず、多くの地元の方が詰めかけました。コンサートでは自身の代表曲が披露され、その中で「色々な講演ではしやぐ子供たちを見て、一日でも早い復興を」との思いから「ふるさととはアジア」を、「たぐさんの

葛城ユキ 石巻に再旋風



花を咲かせば、必ず春が来る」という思いを込めて、バラード曲「ローズ」を歌唱しました。この言葉は、全国の人々が今回の災害を忘れないようにと、講演では必ず呼びかけるそうです。

同氏の鮎川浜への訪問は、昨年の震災後四月に訪れて以来二回目。今回の来石で、昨年の四月に訪れた際に交流があった人々と再会し、掛け合いで盛り上がり、皮相的にもチャリティーコンサートを開催するなど、精力的に復興支援活動を行っています。(シモ)

夢は新聞記者!



「僕の夢は新聞記者になることです」と渡波に住む小学六年生の佐々木君は恥ずかしそうな顔をしながらも、ハッキリとした言葉で語ります。

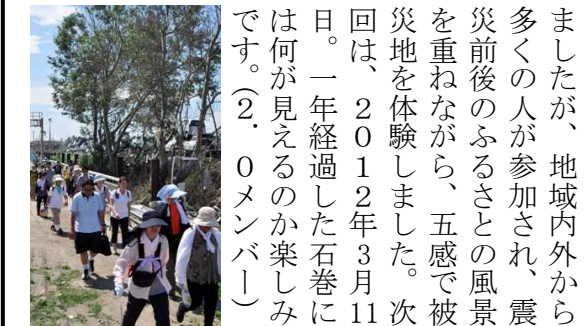
彼は震災後の5月に困っている人の役にたちたいと思ひ、あのヘドロと

瓦礫で小学生にとって危険だらけだった渡波地区を自転車で回り、遠くは万石橋を越えて祝田方面まで足を伸ばして、給水所や炊き出し場所を調べ、小さな弟と一緒に手書きで新聞を作成しました。更に役に立とうと沢の水を自分で汲み、新聞を配る際に一緒に手渡ししました。話をしている時はとても恥ずかしそうに話すが、見た目とは違い危険を冒しても自分の出来ることをした行動力は小学六年生の頃の私と比較してとても立派なものです。(きたむ)

復興ウォーキング

まもなく震災後一年がたとうとしています。震災後、地盤沈下による水辺の冠水や放射能の風評被害によって「被災地」は危なくて近寄れないのではないかと、未だに食料不足やインフラの未整備により滞在できないのではな

域へ伝わりにくくなっています。そこで、昨年7月より石巻スポーツ振興サポートセンターの松村豪太氏が定期的に始めたのが「被災地 復興ウォーキング」です。当初、まだ中央商店街や南浜地区を経由し、湊地区の川沿いを通って中央地区に戻ってくるというコースで、これまで2回開催されています。初回の7月は津波警報が発令され、日和



証明手数料等の徴収について

震災により、被災手続きに使用する各種証明手数料および震災死亡による斎場使用料については免除(無料)としてきましたが、平成24年4月1日より、これら証明手数料および斎場使用料は有料となりますのでお知らせします。

【問】石巻市役所市民課 0225(95)1111 内線2313 (石巻市報2月号より転載)

メッセージ募集

3月11日の節目の日、中央三丁目交番横にて、街づくりに取り組んできた市民団体有志による行事「祈りの灯り希望の灯り」が開かれます。想いを寄せたハト型バルーンを空に放つたり、ライトアップ、キャンドル点灯を行います。それに向け、大切な方へのメッセージを募集しています。

【期間】2月27日(月)~3月2日(金)
【場所】(株)街づくりまんぼう 中央2-1-5

お問合せ：みんなの灯りをとます会090-1367-10083

白河ラーメンがやってくる!

日にち：3月5日
時間：10:00-15:00
場所：石巻立町復興ふれあい商店街(立町大通、元イーケーパーキング)

石巻の皆さんへ白河ラーメン4店舗で作る絆スペシャルラーメン! 現地でスープを仕込み、手打ちの白河ラーメンを120食無料で提供します!

<参加店舗>
田楽食堂
ラーメン処菊忠
みつわ亭
滋味彩館

石巻の空が教えてくれた事

東京から来ている私は「石巻のどこがいいですか?」とよく聞かれ、その時「空」と答えています。石巻の人にとっては「空」というのは意外に思われるみたいですが、東京の狭く濁った空とは違い、こんな空が綺麗な街に今まで住んだことがありません。特に夕焼けの空が最高です。トヤケ森山の夕日。鮎川の夕日。万石橋の夕日。どこも綺麗な水と緑の中、絶妙な輝きを見せながらゆっくりに夜になっていき、毎日異なる美しさに惚れ惚れしています。特にお気に入りには、日和山から見る夕日です。赤く染まった石巻の中で立派に上がる日本製紙の白煙は石巻がしっかりと呼吸している事を感じさせてくれ、どんなに寒くてもその光景は暖かく、安心を深く覚えます。日和山から見える景色は震災の傷跡だけでなく、向きを変えるだけで感じ方が違うんだと、石巻の空が気づかせてくれました。(きたむ)

意見募集!

連絡先(編集部)
090(6639)6467
kasetsukizuna@pbv.or.jp

編集後記

本屋に行ったらキャンデーの『春一番』が聞こえてきました。歌詞をあまり意識していましたが、よく聞くと、もう一度始めませんかって歌なんですね。春にもう一度つてのが前向きな感じで元気が出ますね。(きたむ)

